

これだけは知っておきたい公的年金財政のはなし

厚生労働省 免田 圭介 君

司会 それでは、時間となりましたので、セッション、「これだけは知っておきたい公的年金財政のはなし」を開始いたします。司会を務めさせていただきます、三井住友信託銀行の井出と申します。よろしくお願いいたします。

昨年、年金広報の取り組みをご紹介させていただいたのですが、今回は、1歩進めまして、公的年金財政の切り口から現在の年金広報の内容について、ご講演をいただきます。

アクチュアリーが扱います企業年金や生命保険につきましても、まず基礎となる公的年金制度を、お客様にご理解いただくことが非常に重要な要素となります。公的年金制度の平易な説明は、アクチュアリーのお客様への対応において参考になるものと思っております。

社会全体で高齢者の生活を支えるという公的年金制度の仕組みや、長期的な財政を持つ財政検証、公的年金制度に関する基本的な広報の内容について、厚生労働省年金局数理課数理調整管理室の免田圭介室長補佐より、ご説明をいただきます。

それでは、免田様、よろしくお願いいたします。

免田 厚生労働省年金局数理課の免田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

では、私からは、「これだけは知っておきたい公的年金財政のはなし」ということで、年金局数理課で行っております広報に関する取り組みにつきまして、ご説明を差し上げたいと思います。

その前に、簡単ではございますが、私のこれまでの略歴を紹介させていただければと思います。私は、少し中途半端なのですが、平成16年11月に、厚生労働省に入省いたしました。初めての配属先が、今も所属しております年金局の数理課でした。平成16年は、公的年金財政についてお詳しい方でしたら、ぴんと来る年かもしれませんが、かなり大きな改正を行った年でして、その改正が終わった直後ぐらいに、私は配属になりました。

先ほど、司会の方からもご説明がありましたが、5年に1度、年金局数理課では、現在から将来にかけての年金財政が、どのような推移をたどるのかという推計を行う財政検証というものを行っているのですが、私は、平成16年に配属になりまして、平成21年の財政検証が終わるまで、主に国民年金の将来推計を担当させていただいておりました。その後、他の部署にいろいろ異動があったのですが、また令和2年の夏に、今のポストに戻ってきまして、現在に至る形になっております。

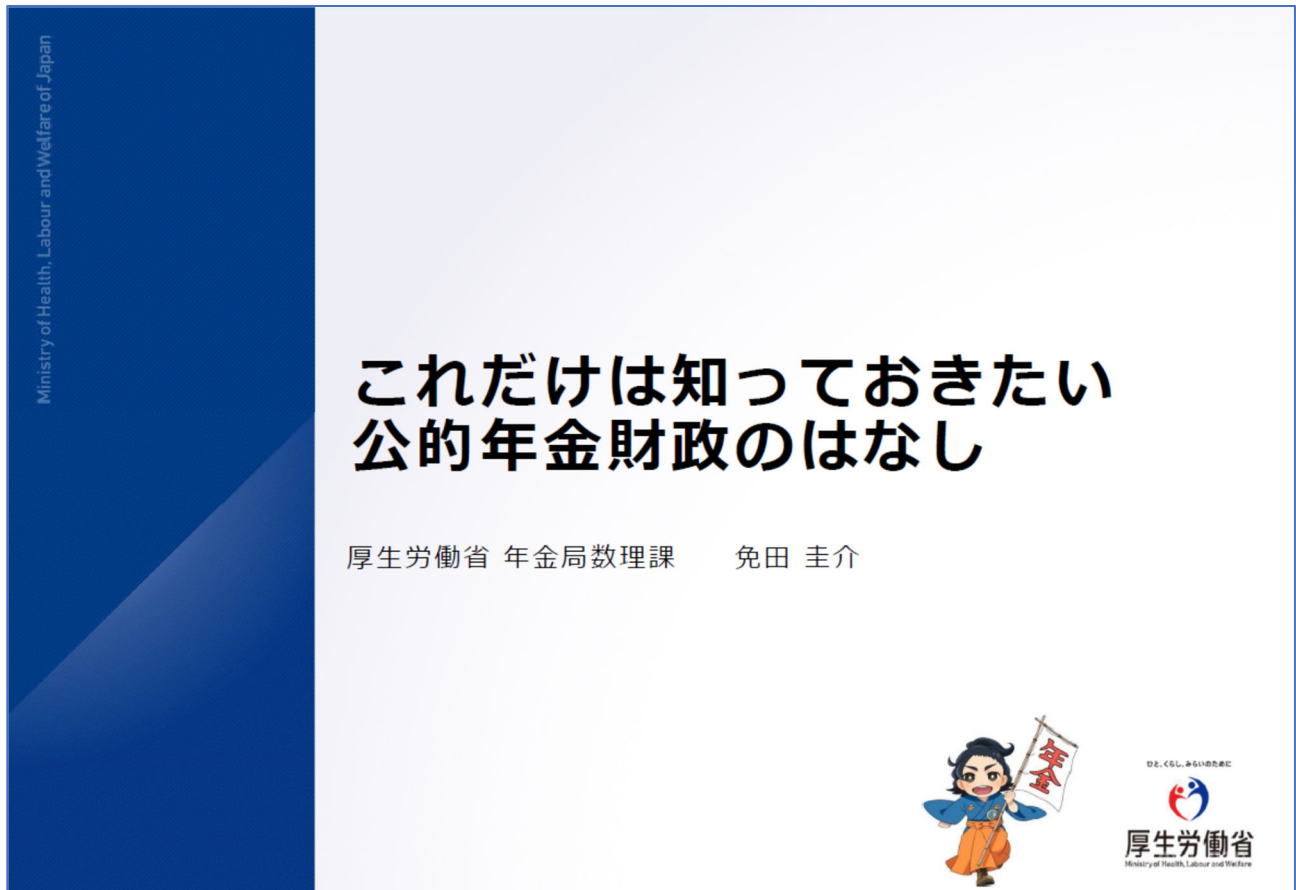
ちなみに、現在は、先ほどご説明にもありまして、数理調整管理室という所で室長補佐をやっております。そこでは、再評価率と申しまして、年金額を計算するときに、過去の賃金水準が現在に換算すると、どれぐらいの水準になるのかを計算するためのものがございますが、その計算や、共済組合、今は被用者年金一元化ということで厚生年金と統合されていますが、共済組合にはそれぞれ各所管の省庁もございまして、そのような所管省庁との連絡調整などの業務を行っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、「これだけは知っておきたい公的年金財政のはなし」の本編の方に移らせていただきたいと思います。その前に、皆様に、Slidoという仕組みを活用させていただきまして、少し伺いましたことがございます。

先ほど、司会の方もおっしゃっていたかと思うのですが、皆様は、企業年金や生命保険に関しましての業務をされていらっしゃる方が多いかと思います。その中で、ベースとなる公的年金制度の理解、または社会保険制度全体の理解は、非常に大切なものとなっていらっしゃるのではないかと想像しております。

つきましては、お客様と接する中で、公的年金について「なかなか難しいな」と思っていること、ごく簡単で構いませんので、最初に思いつくことを、お書きいただければと思います。少しお時間を取りますので、今すぐには書けそうな方がいらっしゃれば、ご入力いただければと思います。その間、ちょっと時間があったらいいということもありますので、少しだけお話を進めさせていただければと思います。



まず、今表示しているスライドの右下に「年金」という旗を持った男の子がいるかと思いますが、せっかくの機会ですので、このキャラクターについてご紹介させていただければと思います。こちらは、「年金水先案内人」と申します。

最近、年金につきましては、先ほど司会の方からご説明いただいたように、広報活動に力を入れ始めております。その中で、厚生労働省のホームページに年金ポータルというものがございしますがそのマスコット・キャラクターとして、幅広い皆様にポータルに関心や愛着を持ってもらえるように設定したキャラクターでございします。

ちなみに、この年金水先案内人の着物の色が青とオレンジですが、なぜ青とオレンジなのか、分かりますでしょうか。これは、現在はなくなってしまいましたが、年金手帳については、大きく分けて青色とオレンジ色のものがあったかと思いますが、そのようなこともありまして、オレンジと水色を基調とした服装をして

いるということです。また、この水先案内人は、この資料の最後の方にも出てまいりますので、覚えておいていただけたら光栄です。

Slido にかなりいろいろとご意見をいただきまして、ありがとうございます。



「支給の繰り下げ」や、「自分のもらえる年金額が幾らか」や、「公的年金は、いずれ破綻すると思っている方が多い」、「マクロ経済スライドの話」、「何歳から受給開始可能か」、あとは、「貯蓄ではなく保険であること」。そのようなことについて、「難しい」というご意見をいただいているようです。どうもありがとうございます。

このようないただいたご意見も参考にさせていただきながら、どこまでご質問を本編の中に盛り込めるかわかりませんが、できるだけ活用させていただきながら、話を進めさせていただければと思います。

いっしょに検証！ 公的年金

- 公的年金の仕組みや財政検証についてマンガを使って分かりやすく説明するとともに、もっと詳しく知りたい人のために、各話の最後に詳細な解説やデータを掲載したものであり、厚生労働省のホームページにて平成26年5月より公開 (<https://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/index.html>)
- 令和元年財政検証結果を踏まえ、本年7月にリニューアルを実施

厚生労働省

いっしょに検証！ 公的年金
～年金の仕組みと将来～

マンガで読む 公的年金制度 世代別解説 財政検証 財政検証 結果レポート 資料ダウンロード リンク集

いっしょに検証！
公的年金
～年金の仕組みと将来～
マンガ第1話を読む

第01話 はじめに

第02話 公的年金と貯蓄の違い

第03話 私的扶養と社会的扶養

第04話 日本の公的年金は「2階建て」

第05話 賦課方式と積立方式

第06話 積立金の役割

第07話 給付と負担をバランスさせる仕組み

第08話 公的年金財政の重要な要素

第09話 所得代替率と年金の実質価値

第10話 給付水準の将来見通し

第11話 年金を充実させるために

第12話 これからの年金制度

Q.02 年金は老後のためっていうけど、貯金しておけばいいよね？

「いっしょに検証！ 公的年金」
QRコード

2

それでは、「いっしょに検証！ 公的年金」のスライドの方に移らせていただきたいと思います。こちらは、先ほども申しましたように、今、厚生労働省年金局の方で作っているホームページでございまして、公的年金の仕組みや財政検証につきまして、漫画を使って分かりやすく説明させていただいているページです。また、もっと詳しく知りたい人のために、各話の最後に詳細な解説やデータも掲載させていただいています。

最初にこれを作ったときは、平成26年だったのですが、その時点の最新のものということで、平成26年の財政検証、前回の財政検証の結果をベースにしたものでございました。今般、令和元年の財政検証を行いましたので、それを踏まえる形でリニューアルさせていただいております。

左のオレンジ基調の方を見ていただきたいと思います。これで見いただいたら分かるかと思うのですが、全部で12話ございます。「はじめに」からありまして、「年金と貯蓄の違い」や、「私的扶養と社会的扶養」など。また、8話ぐらいからは、年金財政のかなり細かい話なども出てきておりますが、このように年金財政の話や財政検証についての話を漫画で説明させていただいております。

また、右の方にピンク色といいますか、そのような基調のものがございます。そちらの方をご覧いただければと思うのですが。各漫画、これは2話の漫画の冒頭ですが、ここにも書いてありますように、初めに、Qということで、この場合ですと「年金は老後のためっていうけれど、貯金しとけばいいよね」というようなQがあります。そのような問い掛けに対して、最後に、ここでは書いておりませんが、アンサーも別途用意しております、「この問い掛けに対しては、こういうふうな答えだ」ということを書いております。

まずQを読んでいただいて、「この内容が、この話では説明がされるんだな」と念頭に置いていただきながら、漫画を読んでいただくと理解が進むのではないかとということで、QとAの仕組みを用意させていただ

ています。

右下には、QRコードも付けさせていただきました。皆様、ぜひ、ご興味があれば、このQRコードから飛んでも構いませんし、上の方にはリンク先も貼っていますので、このどちらかをご利用いただいて、ぜひ、1度ご覧いただければと思います。

公的年金の意義

- 人生には、病気やけが、家計の担い手の死亡など、様々な「もしもの時」が。しかもその「もしもの時」はいつ、どの程度発生するかは誰にも分からず、全ての人があらゆる事態を想定して準備することは困難。
- 高齢によって働けなくなる以外にも、なんらかの事情で働けなくなったり、収入が途絶えてしまうことは人生において大きなリスク。
- 全ての人が「もしもの時」に備えられるようにしたのが公的年金

3

では、これから先は、この漫画で実際に使われているコマを活用させていただきながら、「これだけは、知っていただきたい」と思っている内容を、順次ご説明を差し上げたいと思います。

まず、「公的年金の意義」です。そもそも年金と申しますと、どうしても、「高齢者、高齢期になったときに払われるもの」というイメージが強い制度ではないかと思っておりますが、年金は、それだけではありませんで、それ以外にも支払われる機会があります。

上の丸のところにも書いていますが、病気やけが、家計の担い手の死亡など、いろいろなリスクが人生においてはあるかと思うのですが、公的年金制度は、そのようなリスクにも備えているものとなっています。

例えば、皆様、保険業界などにいらっしゃる方が多いと思いますので、あえて「保険事故」という言葉を使わせていただきますが、公的年金制度が想定している保険事故は、主に、大きく分けて三つございます。まずは、高齢期、そして、障害を負ってしまった場合、あとは、家計の担い手が亡くなってしまった場合、ということで三つを想定しております。いずれも、稼得能力が落ちてしまうというリスクに対して保障するものでして、これらに備えられるようにしたものが年金でございます。

公的年金の特徴

- 公的年金は、一般的には老後の生活資金として考えられているが、広い意味での保険制度。
- 公的年金には、以下の特徴がある。



これら3つの年金ですが、それぞれ役割がございます。

まず、「老齢年金」は、自分がどれだけ長生きするのか。そのときの社会・経済状況～特に物価ですね。最近も物価水準が上がってきていることがニュースになっておりますが、そのときそのときの物価水準等々の経済状況がどうなっているのか。また、老後にどれだけお金が必要か。自分がどの程度長生きするか、そのようなことが、なかなか見通すことが難しいと思います。そのような予見することが難しいリスクに備えるためのものとなっております。

「障害年金」につきましては、やはり、いつ、どのようなときに、予期しない病気や事故で働けなくなってしまうかは、なかなか分からないことだと思います。

また、ご自身が、家計の担い手、一家の大黒柱で、亡くなってしまう場合もあると思います。配偶者が、一家の大黒柱の場合もあるかと思うのですが、そのような主な家計の担い手が亡くなってしまうと、収入がすぐに落ちてしまうこともあるかと思っております。そのようなときにも、一定程度、所得保障をするというのが公的年金制度です。

また、「保険」という意味合いがあるということ、念頭に置いていただければと思います。

同じようなことが、ここにも書いてあります。先ほども少し触れたかもしれませんが、年齢にかかわらず生涯にわたって受けることができるものということが、公的年金の主な特徴の一つです。また、先ほど、将来の社会・経済状況、特に物価の状況を見通すことは難しいと申し上げたかと思うのですが、賃金や物価の伸びに応じて年金額が改定される仕組みがあるということ。また、これは繰り返しになりますが、一定程度の障害を負ってしまった場合や家計の担い手が亡くなった遺族についても受給できるということが、公的年

金の大きな役割となっています。

それでは、ここでまた、二つ目の質問をさせていただきたいと思います。先ほど、「なかなか自分が何歳まで生きるか、どれくらい長生きするのかを知ることは難しい」と、私は申し上げたかと思うのですが、そこで、このような質問をさせていただきたいと思います。「あなたは何歳まで生きると思っていますでしょうか」。今の皆様のご年齢によっても、変わってくるかと思うのですが、今の直感的な考え方で構いません。入力していただければと思います。よろしくお願いします。



免田 大体、今の時点では、「80代」の方が一番多いでしょうか。次いで「90代」の方が多い感じですね。6割くらいの方が「80代くらい」で、4分の1くらいの方が「90代」という感じでしょうか。ありがとうございます。

何歳まで生きる？

65歳の**女性**は何歳まで生きる？



70歳	80歳	90歳	100歳
98%	88%	62%	16%

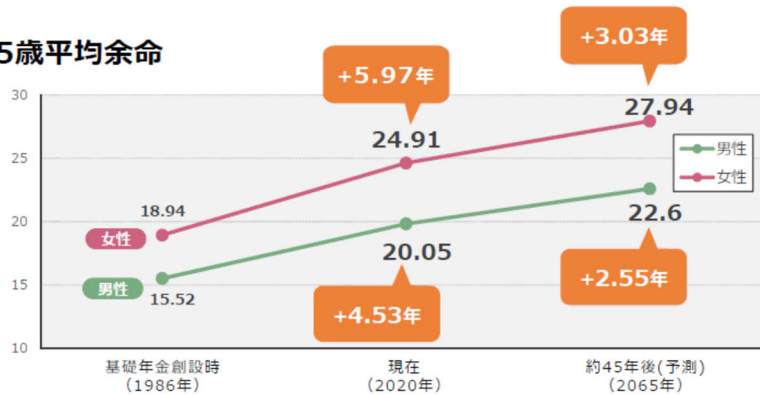
65歳の**男性**は何歳まで生きる？



70歳	80歳	90歳	100歳
94%	74%	37%	4%

※2020年に65歳の場合
出典：厚生労働省「完全生命表」「簡易生命表」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」より試算したもの。

65歳平均余命



出典：厚生労働省「完全生命表」「簡易生命表」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」

これは、あくまでも平均だよな…。何歳まで生きるのか予想するのは難しいなあ。



5

実際には、あくまでも平均的な数字ですが、今お示ししている「何歳まで生きる？」というスライドでご説明させていただきますと、下に「65歳平均余命」というものがあるかと思います。2022年時点で、男性が65歳から何年くらい平均して生きるかということで申しますと、大体20年くらい。女性の方は25年くらいという形です。ですので、男性は85歳くらいまで、女性は90歳くらいまで生きるという見通しになっています。

これが2065年になると、もう少し伸びまして、男性の場合が22.6年、女性の場合が大体28年くらいとなっています。上の方に65歳の女性や男性が何歳まで生きるかの割合を示していますが、女性の場合は大体90歳まで生きる方が6割くらい、男性の場合は、女性に比べれば落ちますが、それでも4割弱くらいの方が90歳まで生きるという試算になっております。

このように、最近では長生きされる方が増えてきておりますし、将来、長生きされる方が、増えていくような推計になっております。そのようなときに、終身で支払われる年金は、安心材料の一つになってくるのではないかと考えています。

社会的扶養と私的扶養

- 公的年金制度がなかった、または未成熟であった時代は、家族などが高齢となった親の扶養をすることが中心（私的扶養）
- 現在は公的年金制度が充実し、高齢者の生活の支えとなっており、親の扶養が家族などによるものから公的年金に移行（社会的扶養）。



それでは、話を变えさせていただきます、「社会的扶養」と「私的扶養」のお話の方に移らせていただきたいと思います。

まず、「扶養」という言葉はちょっと聞きなれないかもしれないと思ったので、ネコに説明をさせています。ちなみに、ご紹介していなかったですが、こちらは「ミーコ」という名前のネコです。しかも、このミーコは、なぜか人間の言葉が話せて、年金制度に詳しいというネコという設定となっています。

左下に、少し分かりにくいですが、オレンジの服を着ている女の子がいますが、こちらが、主人公の「ゆいちゃん」という、26歳、社会人4年目の女の子です。ゆいちゃんは、あまり年金制度に詳しくなかったのですが、このゆいちゃんに対してミーコがいろいろと年金制度を説明していくことで、ゆいちゃんがだんだん年金制度に詳しくなっていく、というのが大きなストーリーの流れになっています。すみません。これは冒頭に説明すべきでした。そのようなストーリーだということを念頭に置いていただきながら、ご覧いただければと思います。

右の方に解説があるかと思いますが、「扶養」とは、ここにも書いています通り、「自立して暮らしていくことが難しい人を援助すること」です。扶養には、大きく分けて二つの仕組みがあると考えております。まず一つは、下の方に書いてある「私的扶養」。上の方に書いてあるもう一つが、「社会的扶養」です。

上の文章の方にも書いてありますが、公的年金の制度がなかった時代、もしくは、制度発足当初で、年金制度がまだ成熟に至っていない時代には、ご家族が高齢となった親御さんの面倒を見るのが中心といえますか、一般的であったのではないかと思います。これを、「私的扶養」と呼んでいます。現在は、年金制度がだんだん成熟化するとともに充実し、高齢者の生活の支えとなっているかと思えます。そのように

考えますと、親御さんの面倒を見ること、扶養が、ご家族によるものから年金に、徐々に移行していったと言えるのではないかと思います。

私的扶養から社会的扶養へ

- かつては、親と同居して農業や自営業と一緒に営む人が多く、自分で親を養っていた。
- 経済成長の過程で、親と別居して都市で働く人が多くなったため、自分で親を養うことが難しくなっていった。こうした社会変化の中で、社会全体で高齢者を支える公的年金制度が整備された。
→ 公的年金制度によって、親の扶養のための費用の負担が軽減されている（私的扶養を代替）。

これが、次のスライドにも書いてあります。繰り返しになりますが、昔は、自分の親御さんと同居しているか、同居はしていなくても、近所に住んでいて、しかも、一緒に自営業や農作業をしている方も、昔は、今と比べての話だと思いますが、多かったと思います。そのように一緒に仕事等をしていくことによって、自分自身で自分の親御さんを養っていたというご家庭が多かったのではないかと思います。

ところが、経済成長がどんどん進んでいく中で、親御さんと離れた形で、東京や大阪等々、都市部で働く人が多くなってきました。やはり、物理的な距離が離れてしまうと自分自身で、親御さんのことを直接面倒見る、養うことが、だんだん難しくなる時代になってきたと思います。そのような社会変化の中で、社会全体で高齢者を支える公的年金制度が、徐々に整備されてきたということです。

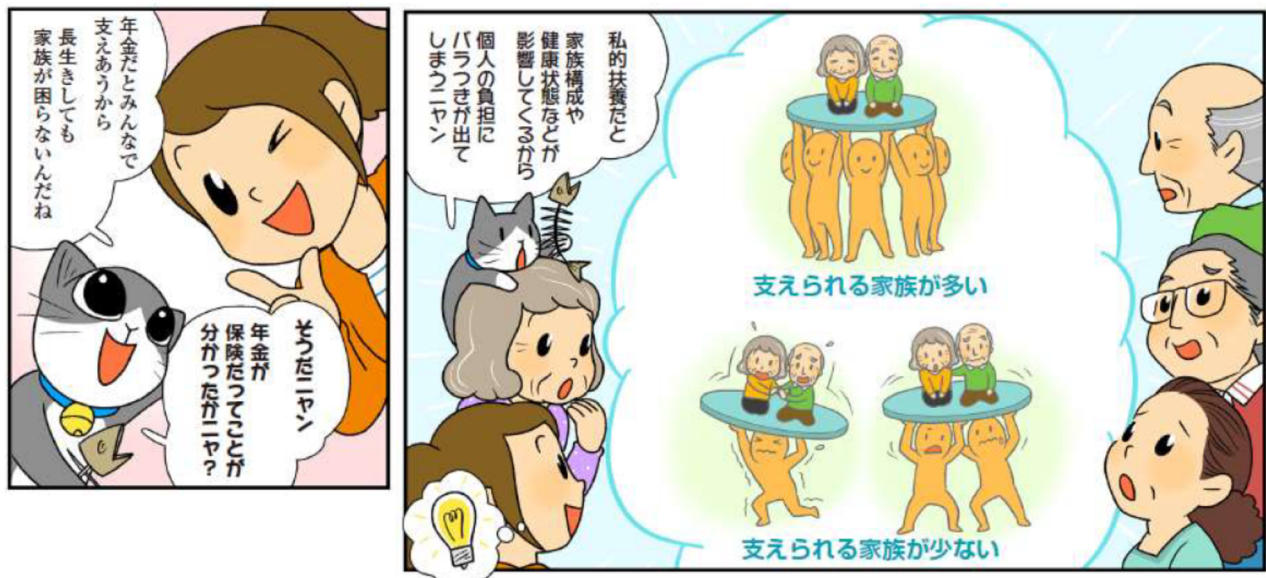
ですので、公的年金制度がどのような役割をしているかといいますと、親御さんから離れた所に住んでいても、親御さんは、息子さんなり娘さん、お子さんの力を借りなくても、何とか生活することができるようになっていく——「私的扶養代替」と書いていますが——社会全体で高齢者を支えることにより、お子さんが親御さんの面倒を見る負担が軽減されるというような仕組みとなっています。

ちなみに、昔と比べて、どのような世帯の変化があったかを調べてみたのですが、例えば1960年から2015年までで、世帯がどのような変化をしているかを調べてみますと、3世代同居が、昔は400万世帯くらいあったものが、現在では300万世帯を切っている。100万世帯以上減っているということです。

また、高齢単身世帯といわれて、65歳以上でかつ単身でお住まいの方が、昔は10万世帯強ぐらいだったものが、今は、もう600万世帯に達しているということです。また、核家族化が進んでいることもありまして、家族の人数も減ってきています。昔ですと、大体一世帯当たり4.5人くらいいたものが、今は大体2.5人になっています。サラリーマンの割合も、昔に比べて増えているようです。昔ですと大体5割強だったサラリーマンの割合が、直近ですと9割くらいまでに達しているということで、経済状況の変化が起こっていることが見て取れるかと思えます。

社会的扶養の意義

- 私的扶養だと、家族構成や親の年齢・健康などが影響して、個人の負担にバラつきが発生。現役世代の負担を均等にする意味でもみんなで協力して支える必要。
- 公的年金が普及している現在においては、現役世代は親に対する経済的な心配が減り、高齢者は自分の子どもに負担をかけず、経済的に自立した生活を送りやすくなる。



8

このような状況下での社会的扶養の意義とは、どのようなことかといいますと、私的扶養ですと、ご家族の構成や、親御さんの年齢や健康状態に、どうしてもばらつきがあります。例えば、親御さんの近くにいるお子さんが多い方などですと、親御さんの面倒を見ることは比較的容易だと思います。しかし、例えば、お子さんの数が少ない、お子さんがいらっしゃったとしても遠方において、直接なかなか面倒を見るのが難しいということであると、この噴き出しメニューの右下の方の絵になるのですが、支えることができる方に負担が過剰に行ってしまうと、大変なことになることが考えられ、このような負担のばらつきがあることが考えられます。

一方、年金制度によって社会的扶養になると、どのようなことが起こるかといいますと、社会保険ですので、皆で高齢者を支える仕組みになります。ですから、負担が平準化されるという言い方がいいのではないかと思うのですが、皆で高齢者を支えるということですので、仮に自分の親御さんが長生きをしても、ご家族の方の負担が少しは軽減されるというようなことが言えます。

このようなことから、左でネコのミーコが「年金が保険だっていうことが分かったかニヤ」って言っていますが、「年金は保険だ」ということが、一つ言えるのではないかと考えているところです。

働き方、暮らし方に応じた公的年金

- 日本の公的年金には、20歳から60歳未満までの全ての国民が加入する「国民年金（基礎年金）」と会社員や公務員などが加入する「厚生年金」がある。
- 国民年金は保険料を納めた期間などに応じて計算した年金を受け取ることができる。厚生年金は保険料を納めた期間と働いていた時の賃金に応じた年金を国民年金に上乗せして受け取ることができる。



続きまして、「年金制度の仕組み」の方に移らせていただきます。こちらは、ご存じの方も多いかと思うので、簡単に説明させていただきたいと思います。

まず、日本の公的年金は、大きく分けて二つあります。「国民年金」と「厚生年金」があります。国民年金は、左下の大きなコマにも書いてありますが、日本に住む20歳以上の方が加入するものが国民年金です。全員が加入する国民皆年金と、よく言うものだと思います。皆さんが加入するものが国民年金。

その中で、特に企業などに勤務している方、公務員も含まれますが、官公庁や企業に勤めているサラリーマンが加入するものが、厚生年金ということになっています。厚生年金に加入している方は、同時に1階部分の国民年金にも加入しているのですが、ここが、なかなか厚生年金に加入している方の意識が及びにくいところかもしれないと思っています。「自分は、厚生年金に入っているけれども、国民年金に入っていない」と思っている方が、中にはいらっしゃることも伺っていますが、そのような仕組みではなく、国民年金は全ての国民が加入している（全ての国民といっても、高齢者は加入していません。）仕組みだということを念頭に置いていただければと思います。

国民年金と厚生年金

- 国民年金は20歳から60歳未満までの全国民が加入し、定額の保険料を納める（厚生年金の被保険者とその被扶養配偶者は国民年金の保険料を納付する必要はない）。
- 厚生年金は企業等に勤務している者が加入し、保険料は、賃金に保険料率を乗じて計算するため、賃金によって保険料が異なる（労使折半）。また、国民年金（基礎年金）の保険料も含まれている。



10

もう少し細かめに書いてあるものが、このページです。国民年金は、ここにも書いてありますように、20歳から59歳までの全ての国民が加入して、定額の保険料を納めることが原則です。

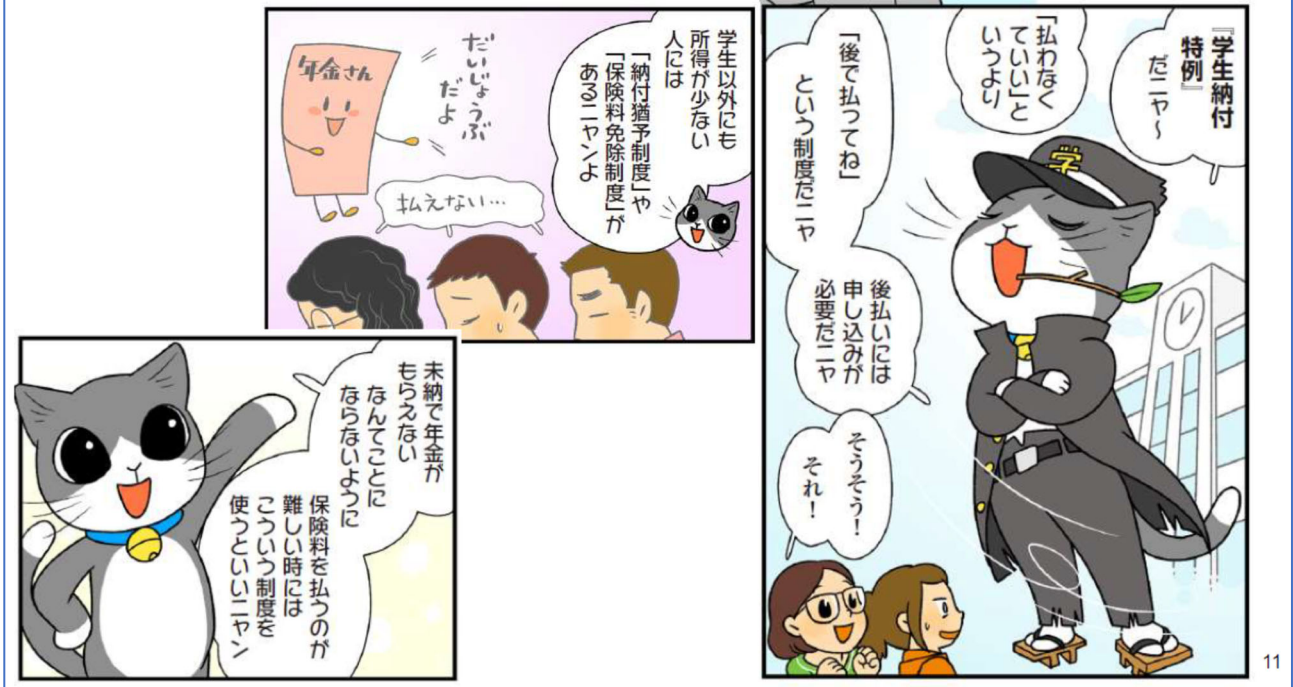
そう言うと、「自分は厚生年金だ。そんな定額の保険料なんて、払ってないよ」と思う方も、恐らく、いらっしゃると思います。厚生年金の被保険者と、その被扶養者。国民年金制度でいうと「第3号被保険者」という言い方をよくすると思うのですが、そのような方々につきましては、定額の保険料を払う必要がなく、厚生年金の保険料の中に、国民年金に相当する保険料も含まれているということでございます。

厚生年金は、企業等に勤務している人が加入することは、先ほど申し上げたとおりですが、保険料は、そのときそのときのご自身の賃金、お給料に保険料率を掛けて計算する仕組みになってまして、現在ですと18.3%となっております。その18.3%を労使で折半しておりますので、実際にご自身で負担していただいているのは、18.3%の半分の9.15%です。

また、厚生年金は、勤務時間等の要件を満たせば自動的に加入する仕組みになっておりまして、お城の絵の左の方の真ん中辺りに書いていますが、正社員に限らず、一定以上の要件を満たせばパート等で働いていらっしゃる場合でも厚生年金に加入する仕組みになっています。

国民年金の保険料免除制度

- 国民年金には、学生や失業等により所得がない場合など、経済的な理由により保険料を納めることが難しい人に対して、保険料の納付を猶予したり、免除したりする制度がある。

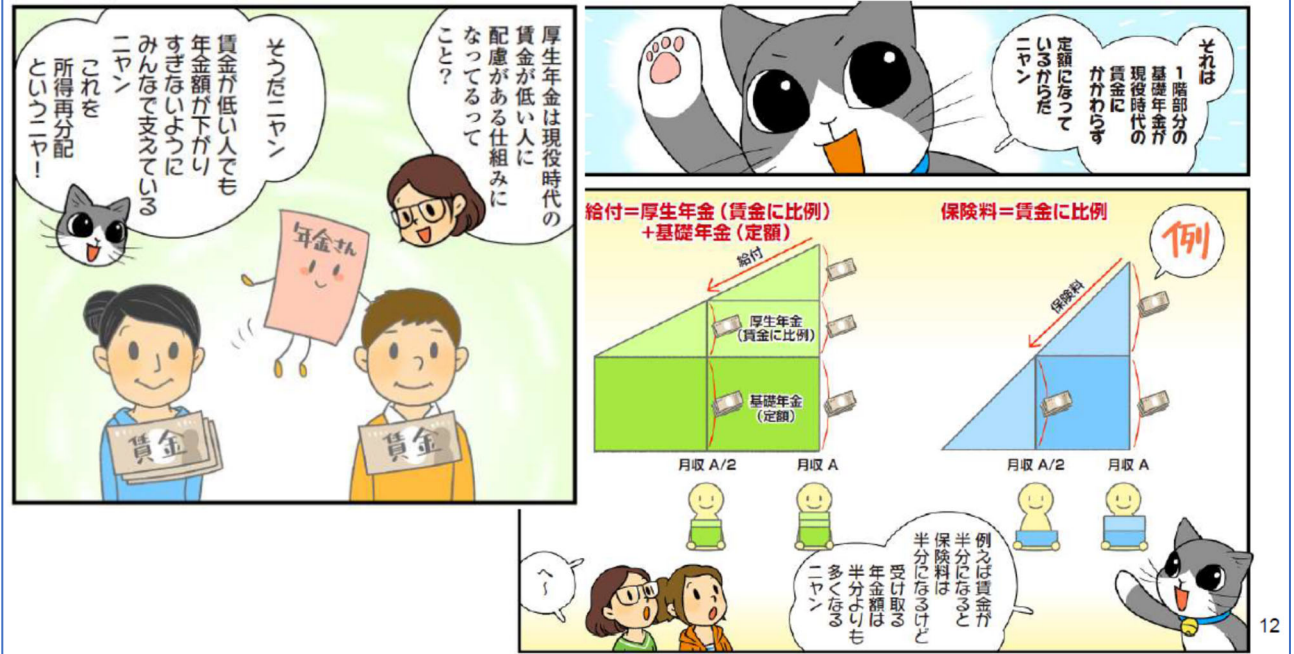


また、国民年金につきましては、保険料の免除制度がございます。一番有名なものは学生納付特例ではないかと思うのですが、国民年金の加入者の中には、学生や、職がない等々の理由で、所得がなくて保険料を払うことが難しい方もいらっしゃるかと思います。そのような方々には、保険料納付を免除したり、猶予したりする制度がございます。 ですから、もし、今、国民年金の保険料を払う必要があるけれども、所得が低いので払うことが難しいという方がいらっしゃれば、このような制度を、ぜひご活用いただいて、将来受給できる年金額を少しでもいいものにしたたり、あとは、未納してしまうことによって、年金を将来もらえないというようなことがないようにしていただけたらと思います。

皆様も、このようなことをおっしゃっているお客様が、もしいらっしゃれば、ぜひとも「こういった制度もありますよ」と、ご周知いただければ幸いです。

公的年金の所得再分配機能

- 厚生年金に加入していた人の年金額は、働いていたときの賃金と加入期間に応じて年金額が決まる厚生年金と、定額である基礎年金の合計となる。
- 現役時代に賃金が高かった人はそれだけ年金額も高くなるが、現役世代の賃金の差ほどは年金額には差はない。
- このように、公的年金には所得再分配機能がある。



続きまして、「公的年金の所得再分配機能」に移らせていただきます。厚生年金は、基本的には、右下の青い三角形と緑色の三角形と四角形が混ざっている図を、ご覧いただきたいと思うのですが、働いているときは、賃金に応じて保険料を払うことになっています。例えば、ここには月収Aと、月収2分のAと書いてありますが、ある方が、別の方のお給料の半分しかお給料がないという例だとすると、保険料は賃金に比例しますので、払わないといけない保険料は半分になるという仕組みになっています。

この場合の将来受給する年金額につきましては、まず、2階部分である厚生年金は、現役のときに払った保険料の額に応じて年金額が決まりますので、例えば、先ほどの例で申しますと、月収Aだった方に比べて、その半分の月収しかなかった方は、厚生年金につきましては半分しか受給できないというような仕組みになっています。しかし、これは、あくまでも2階部分だけの話です。

説明が若干飛んでしまっていたかと思うのですが、1階部分として、もう一つ年金があります。いわゆる国民年金や基礎年金と呼ばれているものです。これは全国民共通の給付になっておりますので、定額になっています。

つまり、何を言いたいのかと言いますと、現役時代よりも高齢期に差しかかったときの方が、差が小さくなるということが言えるということです。現役期の賃金が半分になると保険料は半分になるけれども、高齢者になって受け取る年金額は半分までは行かない。これを所得再分配と呼んでおります。左のコマにも書いてありますが、賃金の低い人の将来の年金額が下がり過ぎないように、皆で支えている仕組みだということです。

今の年金制度は国民皆年金、皆様が加入する必要があるということで、所得が高い人も、所得の低い人も、

皆さん、等しく加入しなくてはいけないという仕組みであるが故に、再分配機能がございます。このように現役時代の賃金が低い人に対して配慮のある仕組みであることが、年金制度の非常に重要な仕組みの一つとなっています。

公的年金の財政方式

- 年金の財源を準備する方法として、「賦課方式」と「積立方式」があるが、我が国の公的年金は「賦課年金」を採用している。
- 積立方式は急激な物価上昇が起こったときに年金の価値を維持するのが難しい。

年金の財源を準備する方法は大きく分けて2つあるニヤン！

日本の公的年金はこの「賦課方式」を採用しているニヤンよ

積立方式だと急激な物価の上昇が起こったときに年金の価値を維持するのが難しいニヤン

え！

さっかー 例えは年金額がかわらないで物価が倍になったら買える物が半分になっちゃうってこと？

なんで積立方式じゃなくて賦課方式なの？

将来 現在

将来 現在

現役時代に払った保険料を積み立て、老後にそのお金を受け取る仕組み。

今の現役世代が払っている保険料は今の年金受給者に給付される仕組み。今の現役世代が年金を受け取るとき、そのお金を払うのはもっと下の世代になる。

続きまして、「公的年金の財政方式」につきまして説明させていただきたいと思います。年金の財源を準備する方法には、「賦課方式」と「積立方式」がございます。我が国の公的年金制度につきましては、このうち、賦課方式を中心とした方式となっています。

賦課方式とは、大きなコマの下の方にも書いていますが、「今の現役世代が払っている保険料が、今の年金受給者に給付される仕組みである」という仕組みのことです。では、今の現役世代が実際に年金をもらうときはどうなるかといいますと、その原資となる保険料を払う人は、もっと下の世代になるということで、世代間の助け合いの仕組みになっています。

ここで、オレンジのパーカーを着ている主人公のユイちゃんが、「何で積立方式じゃなくて、賦課方式なの？」と尋ねています。積立方式は、ここにも書いてありますように、現役時代に自分で払った保険料を積み立てて、老後に、そのお金を受け取る仕組みですが、これだと、左でネコのミーコが説明していますが、急激な物価上昇や経済変動が大きくなったときに、年金の価値を維持することがなかなか難しいという側面があります。

将来の物価はどうか？

例 | 1975年 → 2020年



物の価格の変化を正確に予想するのが難しいなあ。

出典：総務省統計局「小売物価統計調査」
(注1) 東京都区部の比較
(注2) 大学授業料は法文経系

14

ここで、「将来の物価はどうか？」というスライドがあります。これを見ていただいても分かるように、片やイチゴのように、昔に比べて物の値段が安くなった物もあれば、上がっている物もあったり、特に大学の授業料などは、昔に比べて、かなり上がっていたりしてします。このように、将来の物価がどうかは、なかなか見通すことが難しいのではないかと考えております。

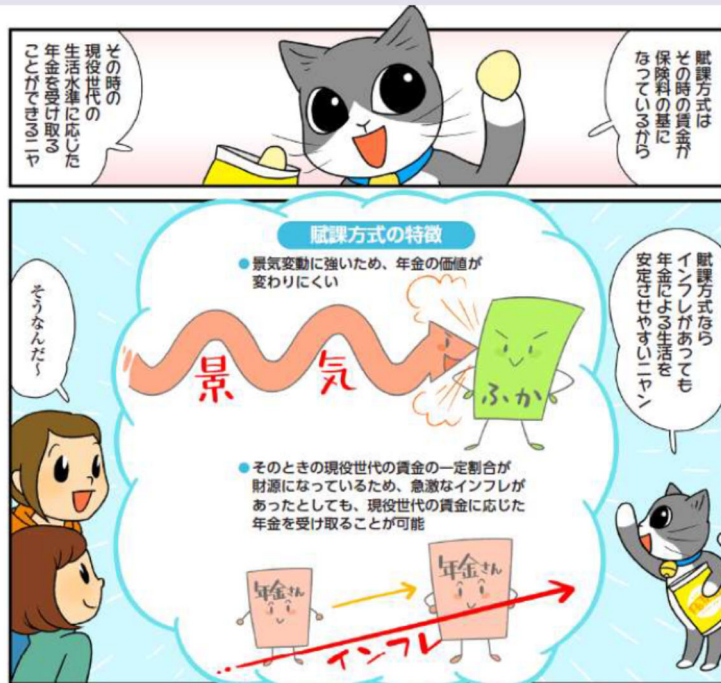
昨年は、年金制度全体の広報活動について、説明があったと伺っていますが、実は、2020年に実施した年金の広報活動につきましては、ISSA、国際社会保障協会というところが開催する賞を受賞いたしました。

受賞した理由としてはいくつかあるのですが、評価いただいたもののなかに、年金のクイズ動画がございます。なぜ、このようなところで説明するかと言いますと、このクイズ動画で物価についてのクイズもございまして、ちょうど関連する内容となっておりますので、ここでご紹介させていただきました。もし、ご興味があれば、Youtube や厚生労働省のホームページからも飛べますので、先ほどご紹介したページから探していただければと思います。

具体的には、Quizknock さんという、クイズを通して、様々な活動をしていらっしゃる集団がいらっしゃるのですが、コラボさせていただいて、Quizknock さんに年金のクイズ動画を作ってくださいました。その中で、「将来の物価は、なかなか予測するのが難しい」ことから、「年金制度は、物価や賃金に応じて、年金水準が決まっているのです」というご紹介をさせていただいています。そのクイズ動画の中で、このページにあるようなものも出てきています。なぜ、ここでイチゴやアサリといった物が出てきているのかが分かるかと思っておりますので、ご興味がある方は、ぜひとも、ご覧いただければと思います。

賦課方式の特徴

- 賦課方式はその時の現役世代の賃金が保険料の基になっているため、その時の現役世代の生活水準に応じた年金を受け取ることができる。
- また、景気変動に強く、インフレがあっても年金による生活を安定させやすい。



15

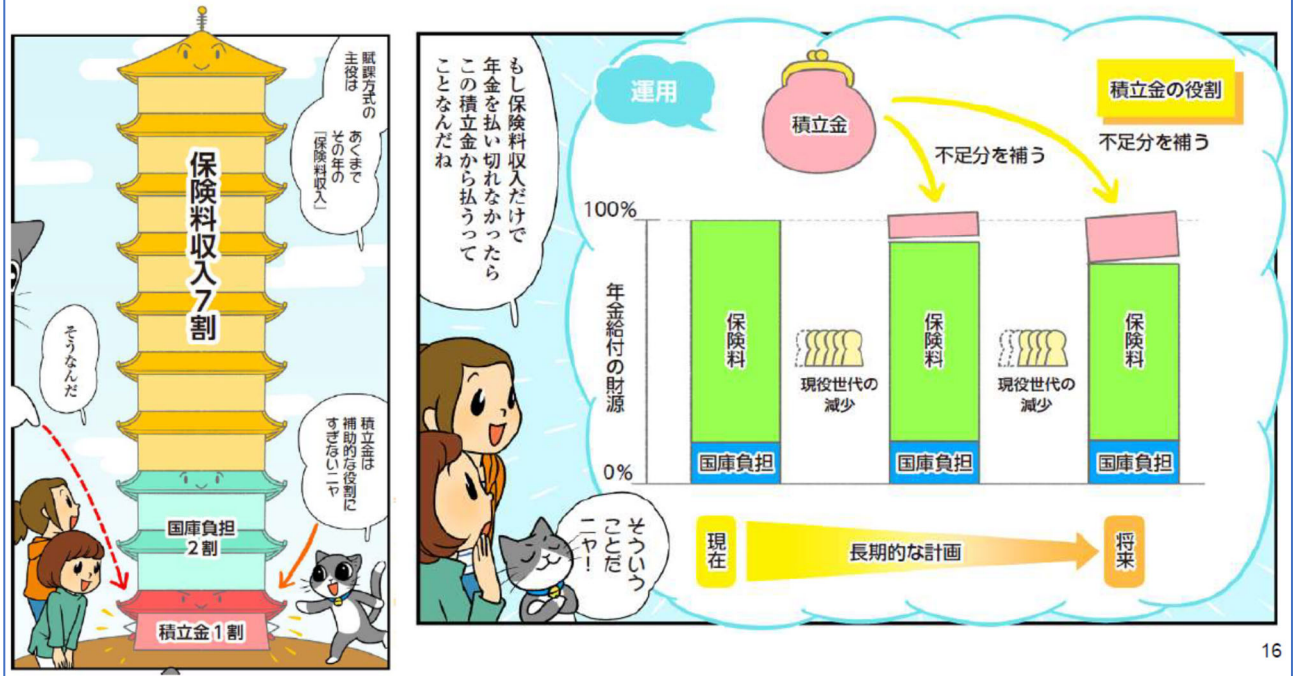
それでは、「賦課方式の特徴」に移らせていただきたいと思います。賦課方式は、先ほども申しましたように、世代間の助け合い、「世代間の仕送り」とも、よく言いますが、そのような仕組みになっています。

どのようなメリットがあるのかということですが、賦課方式は、上にも書いてありますが、そのときそのときの現役世代の賃金が保険料の原資となっております。その保険料を基に、そのときの高齢者等々の年金受給者に年金をお支払いすることになっています。

そうすると、どのようなことが言えるかといいますと、現役世代の生活水準に応じた年金を受け取ることができるということです。言い換えると、景気変動に比較的強い仕組みになっていると言えるかと思います。インフレに仮になったとしても、それに応じて賃金が上がっていれば、その賃金水準に応じた年金を受け取ることができるので、インフレに比較的強い。絶対ではないです。それで絶対に全てを解決できるかといいますと、そうではないと思いますが、比較的強い仕組みである。これが、賦課方式の大きな特徴ではないかと考えております。

積立金の役割

- 積立金の役割は、将来世代の給付水準が低くなりすぎないようにすること
- 我が国の財政方式は賦課方式を基本としているため、公的年金財政の収入の大部分は保険料収入。積立金は補助的な役割にすぎず、収入の1割程度。



「そういえば、年金は賦課方式と言っておきながら、積立金を持っていたのではないか」と思っている方も、いるかと思います。実際、持っておりまして、大体、今、200兆ちょっと年金の積立金がございます。では、賦課方式の仕組みの中で、積立金はどのような役割なのかを、ご説明を差し上げたいと思います。

将来、少子高齢化が進むと、完全な賦課方式では保険料が少なくなってきてしまい、年金を賅うことが難しいが出てきてしまうことが考えられます。そのときに積立金を使うことによって不足分を賅う。そうすることによって、将来の年金の給付水準、年金額があまり低くなり過ぎないようにすることが、一つの目的となっております。

左の、何か五重塔をもっと高くしたような絵がありますが、ここに書いてありますように、わが国の財政方式は、賦課方式を基本としておりますので、収入の大部分が保険料収入でして全体の約7割となっております。

また、基礎年金の給付を賅うために、基礎年金給付費の半分、国庫負担、税金という言い方が分かりやすいかもしれませんが、国庫負担が入っています。これが全体の約2割。残りの1割が積立金ということです。これをみてもお分かりのとおり、積立金は、補助的な役割を担っております。わが国の公的年金財政は、保険料収入が基本となっておりますが、積立金もうまく活用していくことにより、年金の水準を少しでもいいものにしております。

平成16年年金制度改革

- 平成16年改正以前は、まず給付費の見通しを計算し、それに見合う保険料収入がどの程度必要かを計算していたが、少子高齢化が進展するなか、保険料が青天井になるのではないか、との懸念が。
- そこで、平成16年改正において、まず保険料率の上限を決め、収入の範囲内で年金額の水準を決める方式に変更

確かに、現役世代の人口と平均収入が分かれば、保険料がどのくらい入ってくるか計算できるかも

次に保険料率の上限を決めた上で、長期間の人口と経済の仮定を立てる「マン」

人口の見通し × 経済の見通し × 保険料率 (上限固定) = 保険料収入の見通し

被保険者数 (保険料を払う人) × その時点での資金

要はまず将来入ってくる保険料収入を計算して、この中で、やりくりできる水準に年金額を調整してること？

ニヤンニヤン

続きまして、平成16年の年金制度改革の説明に移らせていただきたいと思います。先ほど、「平成16年に、私が入省して、そのときに、ちょうど大きな改正があった」という話をさせていただいたかと思うのですが、平成16年の年金改正で、どのような改正が行われかということ、説明させていただきたいと思います。

まず、平成16年改正以前は、どのような仕組みだったかと言いますと、企業年金で言うとDBに近い形だと想像していただけると分かりやすいかと思います。具体的には、まず、給付費が将来どれくらいになるかの見通しを計算して、それを賄うために必要な保険料収入がどのくらいだろうかを計算しておりました。

ですから、「財政再計算」という仕組みだったのですが、「再計算」とは何を再計算しているかといいますと、保険料の再計算をしていたということになります。まず支出があって、その支出を賄うために必要な収入、保険料率はどれくらいにしないといけないかを計算していたのが、平成16年改正前でした。

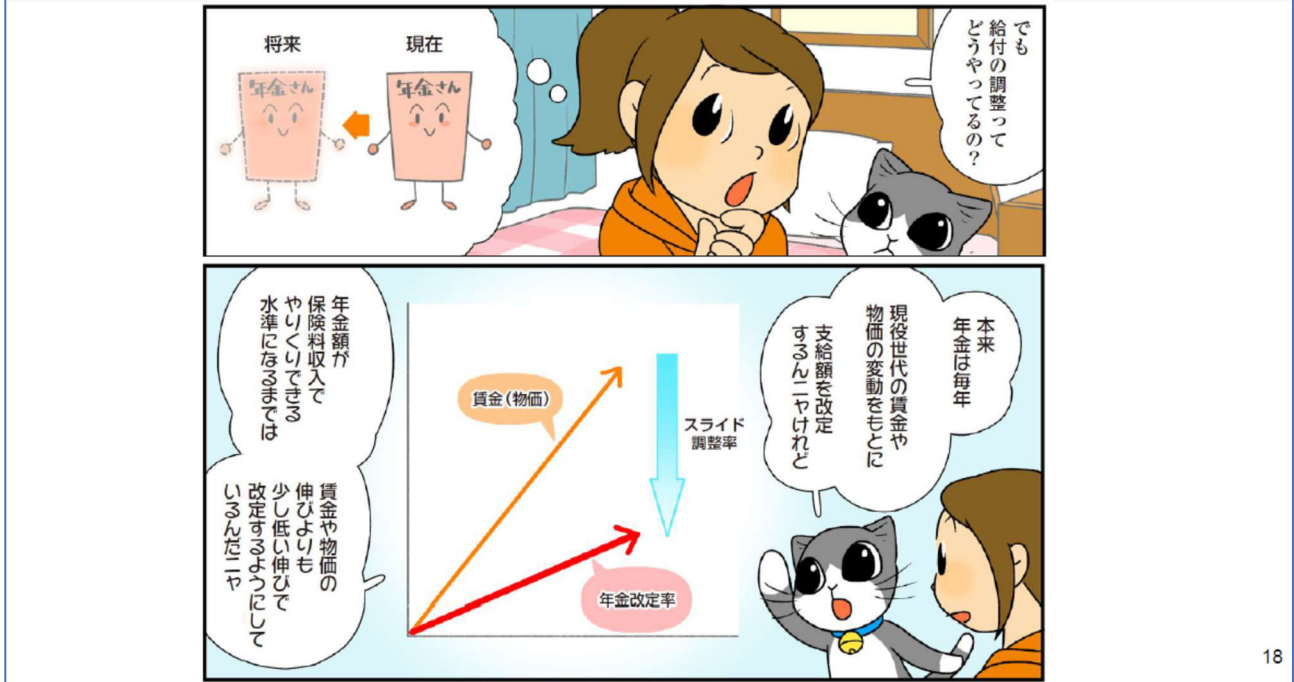
そこで、よくいただいていたご指摘は、少子高齢化です。5年に1度、財政再計算として、そのときそのときの直近の人口の将来見込みを基に推計を行うのですが、みなさんご承知のとおり、だんだん少子高齢化が進展していった。ですから、財政再計算を行うたびに、保険料率がだんだん上がっていく結果となったということがあります。このため、保険料が青天井に上がっていくのではないか、という懸念がありました。

そこで、平成16年の年金制度改革におきまして、まずは保険料率の上限を決めました。平成16年改正前は支出の見込みを先に推計したのですが、収入の将来見込みを先に決めて、その収入の範囲内で年金額をお支払いする、年金額の水準を決める、という仕組みに変えた。それが、平成16年改正の一番大きなところとなっています。左下に主人公の女の子のゆいちゃんがありますが、その絵にもあるとおり、まず左の方の収入

の見通しを推計し、その収入の範囲内に年金が収まるように年金額を調整する仕組みになっております。

マクロ経済スライド

- 年金額は、本来は賃金や物価の変動をもとに改定するが、支出（年金額）が収入（保険料収入等）の範囲内に収まるまでは賃金や物価よりも少し低い伸びで改定する。
- この仕組みをマクロ経済スライドと呼んでいる。



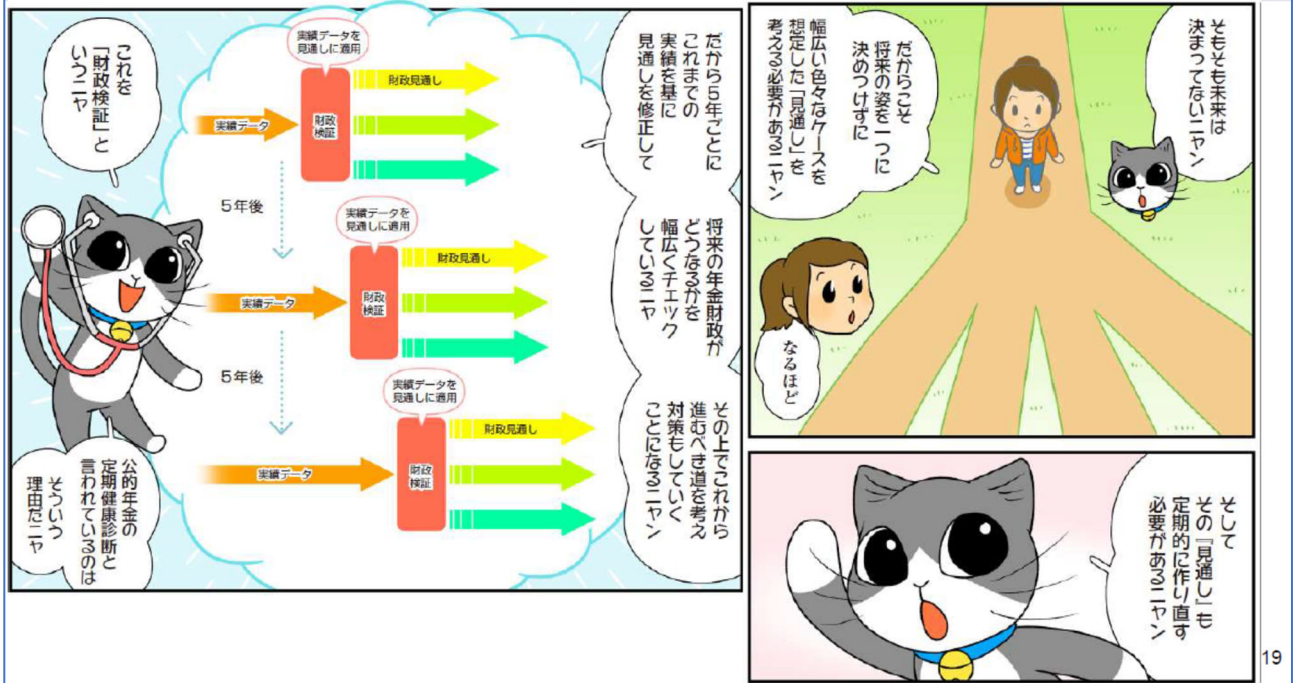
では、この年金額調整の仕組みが何かといいますとマクロ経済スライドです。冒頭のご質問でも、マクロ経済スライドについて言及された方がいらっしゃったかと思いますが、先ほど、将来の収入・支出のバランスを見ているとご説明したかと思いますが、もう少し具体的にといいますと、約 100 年間の総支出が総収入とうまくバランスするまで調整することが、マクロ経済スライドの仕組みとなっています。

下の絵でもネコのミーコが説明していますが、本来、年金は、毎年、賃金や物価の変動を基に、年金額を改定するのですが、収支のバランスがうまく取れるようになるまでは、それよりも少し低い改定率で年金額を改定することをマクロ経済スライドと呼んでいます。

ここで言うと、水色めいた「スライド調整率」と書いているものがマクロ経済スライドです。本来は、オレンジ色の線で年金額を増やしていかなければいけないところを、赤の線までしか増やさないという仕組みを導入することによって、約 100 年間の総収入と総支出がバランスするまで調整していく、ということをやっております。

財政検証について

- 将来見通しは5年毎にこれまでの実績を基に修正しており、これを基に将来の年金財政がどうなるかを幅広くチェックし、その上でこれから進むべき道を考え、対策をしていくこととなる。
- これの仕組みを財政検証と呼んでいる。

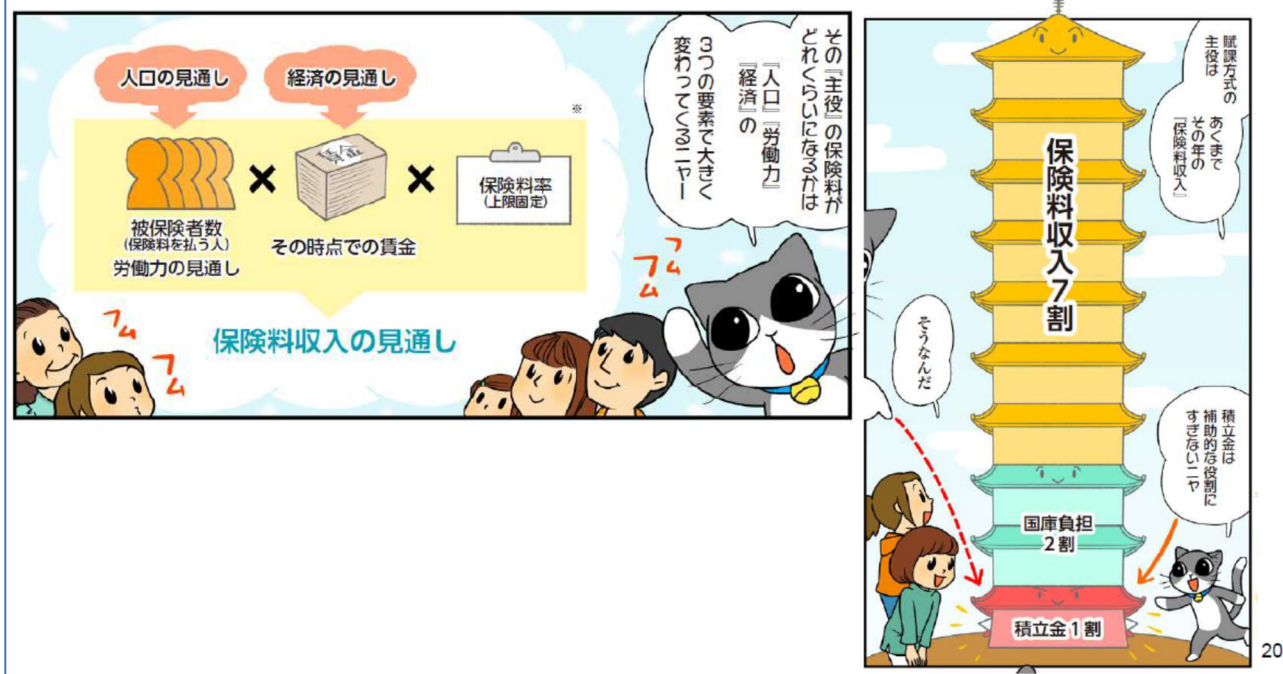


では、マクロ経済スライドをどの程度まで掛ければ大丈夫か、ということが気になるところですが、このようなことを1回だけしか推計せず、決めてしまうと、「本当にそれでいいのか」という心配が発生することもあるかと思えます。このため、将来見通しを定期的に見直していくことが非常に大事になってきます。ご存じの方のもいらっしゃると思いますが、5年に1度、新しい人口推計が出るということもありますので、5年ごとに将来見通しを修正しております。

当然、そのときには、5年間で分かった新しい実績を基に将来推計をし直し、例えば、マクロ経済スライドをどこまで掛ければいいのかや、将来の年金財政がどうなるのかをチェックする仕組みを、「財政検証」と呼んでおります。

年金財政に重要な要素

- 我が国の公的年金は賦課方式を基本とした財政方式であるため、保険料収入が全体の約7割（再掲）。
- その保険料収入がどの程度となるかは、「人口」、「労働力」、「経済」の3要素で大きく変わってくる。

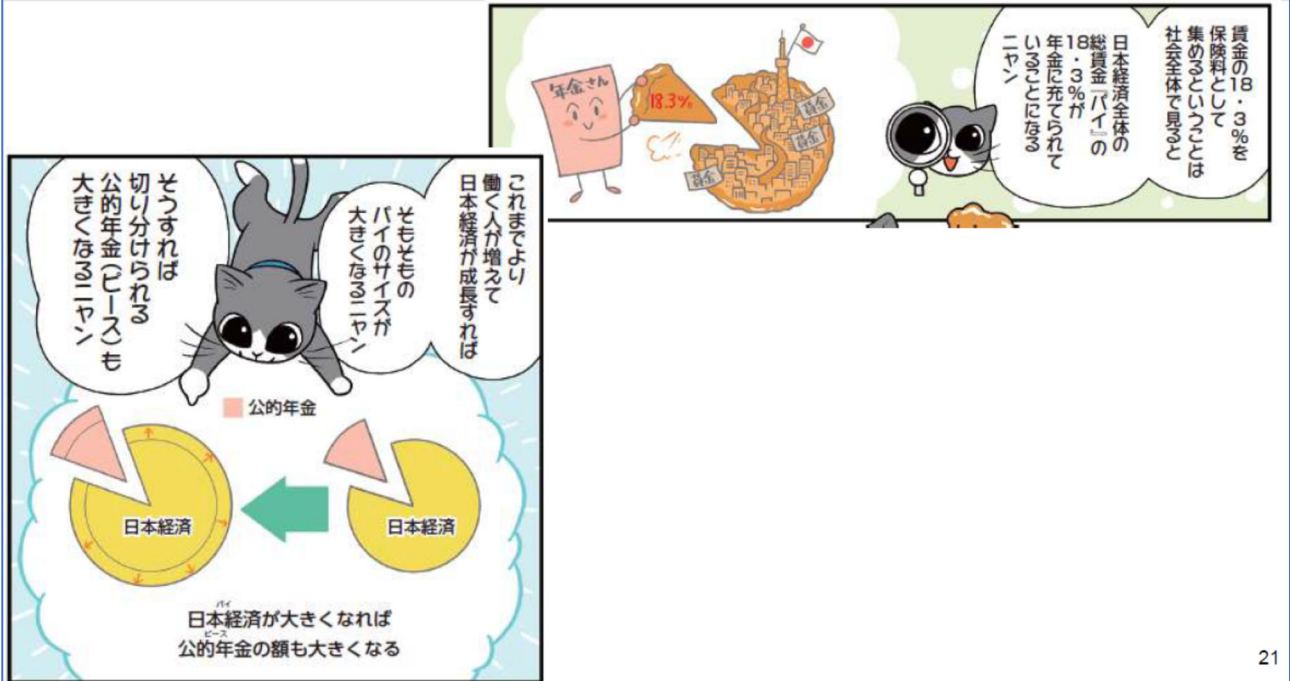


20

では、年金財政をよくしていくためにはどのような要素が重要なのでしょうか。先ほども申しましたように、わが国の公的年金制度は賦課方式を基本としておりますので、保険料収入が全体の7割を占めます。ということは、その収入の主役である保険料収入が将来、どの程度となるのか、ということが年金財政にとって大事になってきます。保険料収入について要因分解をしますと、被保険者数がどの程度になるのか、その被保険者の賃金がどの程度になるのか、の2点に分解することができます。まず将来の被保険者数がどれくらいになるかについてですが、これは人口の将来見通しと労働力、どれくらいの方が働くかの見通しの2つがあれば推計することができます。また、賃金については、経済の見通しが重要になってきます。～経済がよくなれば、その分だけ保険料収入が増えることになり、逆に悪くなれば、保険料収入が減ることになります。～このように、人口、労働力、経済の3要素の将来がどうなるかが、重要になってきます。

公的年金をよりよくしていくために

- 厚生年金の保険料率は18.3%だが、賃金の18.3%を保険料として集めるということは、日本経済全体の賃金「パイ」の18.3%が年金に充てられていることになる。
- これまでよりも働く人が増え、経済が成長すれば、パイが大きくなり、ピース（公的年金）も大きくなる。

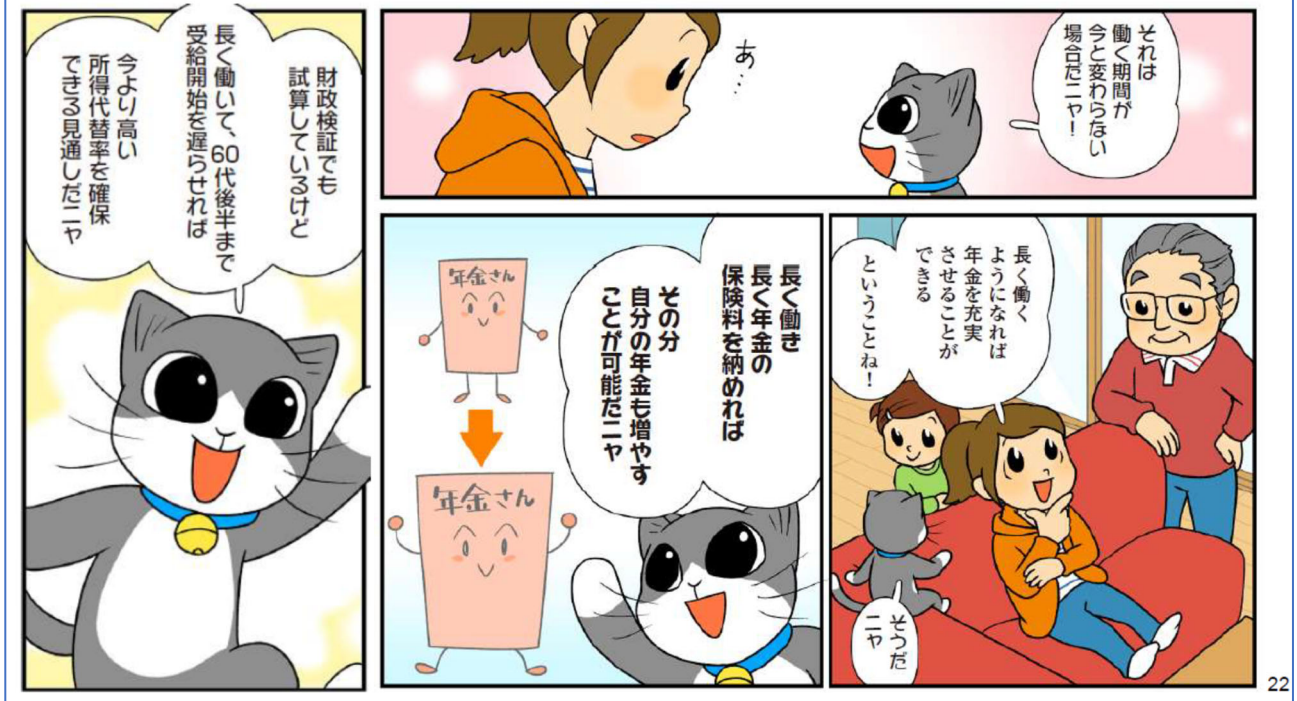


21

先ほどのスライドを別の観点からみると、この絵の右上の、「パイ」とよく呼んでいます、このパイで考えますと、厚生年金の保険料率は18.3%で固定になっているのですが、ということは、賃金の18.3%分を保険料として集めていますので、日本経済全体の総賃金の内、18.3%分が年金に充てられているということになります。そもそものパイの大きさ、日本経済が大きくなれば、その18.3%分の年金額も大きくなりますので、日本経済が今までよりもよくなっていくことが重要になってきます。

年金をより充実させるために

- 将来、年金の水準が低下したとしても、長く働き、受給開始を遅らせれば、今よりも高い水準の年金を受け取ることも可能。



また、先ほどあったパイを個人単位で見たらどうなるのか、について説明しているのが、このスライドです。当然かもしれませんが、長く働いて、その分年金の受給開始を遅らせることができれば、年金額を高くすることが可能です。厚生年金は70歳まで加入することができますので、働く期間が長ければ長いほど、年金額が増える仕組みとなっておりますし、それに併せて、年金には繰り下げ受給の制度の話もありますので、自分の年金を増やすことが可能だということです。

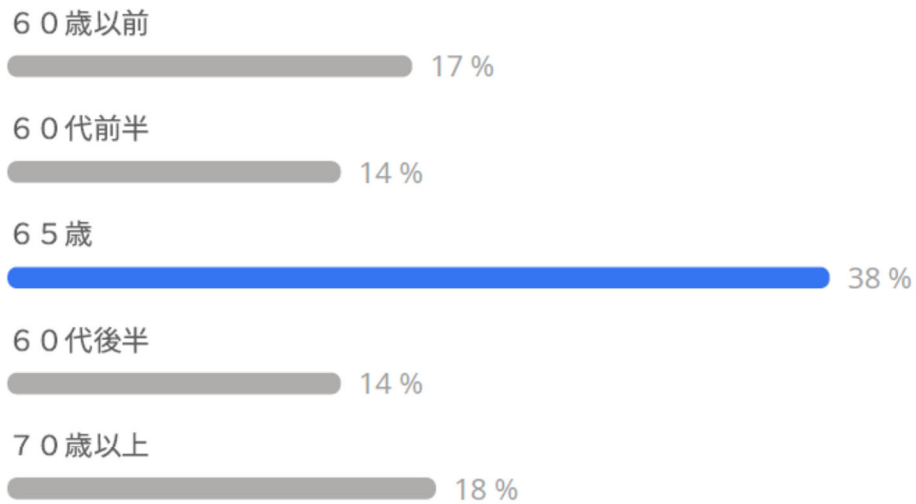
一番左の絵でネコのミーコも言っていますが、60歳で仕事を辞める方が、今はまだ多くいらっしゃるのではないかと思います。これを60代後半まで働き、受給開始を遅らせることができれば、将来、マクロ経済スライドによって年金の水準が調整されていたとしても、今よりも高い年金水準を確保することもできるようになっています。

そこで、最後の質問をさせていただきたいと思います。「あなたは何歳まで働きたいと思いますか」という質問です。なかなか想像しづらいかと思いますが、私の想像では、「体が元気なうちは、ずっと働いていたい」という方もいらっしゃるかと思いますし、「早くリタイアしたい」と思っている方もいらっしゃると思いますので、現時点での印象を入力いただければと思います。

Multiple-choice poll

③あなたは何歳まで働きたいと思いますか？

066



slido

早速、ありがとうございます。「65歳」が多く、「70歳以上」も、それなりにいらっしゃいますね。やはり、「65歳」が一番多いですね。それ以外は、大体並ぶようになってきましたね。ありがとうございます。65歳が一番多いですね。

これは私個人的な印象ですが、高齢になっても体がお元気で、やりがいをもって仕事ができるということは、いいことのように考えております。長く働き、その分受給開始を遅らせれば、年金の水準も増えるということを頭の片隅にでも置いてもらえればと思います。

「給付と負担」の将来

公的年金って、

- 人口動態
- 経済の状況
- 労働市場の状況

に大きく影響を受けるんだね。



23

最後に、まとめです。冒頭に申し上げた年金水先案内人が、より大きくなって出てきました。年金は、先ほども申しましたように、人口と経済の状況、労働市場の状況、これで賦課方式の全体の収入の7割を占める、保険料収入の水準が決まるということですので、この影響が大きくなっています。少なくとも、将来の経済や労働市場については我々でよりよりものにしていけるのではないのでしょうか。年金水先案内人も言ってますとおり、公的年金制度の未来をみんなで創るという意識が重要になるのではないかと考えています。

公的年金制度の未来

- 将来の人口動態 → 予測できる
- 将来の経済 → 創れる
- 将来の労働市場 → 創れる

公的年金制度の未来を
「みんなで」創ろう！



それを考えると、将来の人口動態は、予測することができます。また、将来の経済や労働市場については、これからのことですので、皆でよりよいものにしていけるのではないのでしょうか。これまでご説明差し上げたとおり、経済や労働市場の状況がよくなれば、年金の状況もよくなるということですので、皆でこのような社会を創っていきたいということが、繰り返しになりますが、われわれが考えていることです。

公的年金制度の未来

将来の人口動態 → 予測できる

将来の経済 → 創れる

将来の労働市場 → 創れる

公的年金制度の未来を
「みんなで」創ろう！



最後に、「このようなことを考えています」ということで、収入を増やす方策として、簡単にいいますと、「経済の状況をよくしたい」、「子どもを産み、育てやすい環境をつくっていくことはできないか」、「制度改革を適切に行うことによって、水準をよりよくすることはできないか」ということを考えているということです。

少し駆け足になって恐縮ですが、私からの説明は以上とさせていただきます。どうもありがとうございます。

司会 免田様、ありがとうございました。

それでは、残り5分ほどございます。質問が出ておりますので、そちらに答えていただきたいと思います。

まずは、「厚生年金のマクロ経済スライドの終了時期は、以前2025年と出ていましたが、国民年金は、たしか2047年と、かなり遠い将来だったと思います。基礎年金と厚生年金の終了時期の同一化という話も聞きますが、マクロ経済スライドを短縮化させる案として、どのようなことが検討されているのでしょうか」ということで、お願いいたします。

免田 ありがとうございます。

こちらにつきましては、直近の令和元年財政検証ですと、経済前提がケースⅢの場合、厚生年金のマクロ経済スライドが、おっしゃるとおり、2025年度に終了し、一方で、国民年金は2047年度に終了する見込み状況となっております。

課題として何があるかといいますと、途中で「年金には所得再分配機能があります」という話をさせていただいたかと思えます（資料1 2 ページ参照）。この所得再分配機能は、基礎年金の額が重要になってきて、基礎年金の額が小さいと所得再分配機能が弱まるというような懸念がございます。

基礎年金のマクロ経済スライドによる調整が長いということは、基礎年金の水準がどんどん目減りしていくということでもありますので、これをうまく回避する～「所得再分配機能の維持強化」とよく呼んでいます。～「そのような方策を考えなさい」というご指摘をいただいているところです。このため、基礎年金と厚生年金のマクロ経済スライドの終了時期を仮にそろえた場合、終了時期はどうなるかを、2年前の12月に、追加試算として公表させていただいたところです。

仮にそろえた場合、マクロ経済スライドの終了年度は2033年となります。そうすると、マクロ経済スライドが早期に終了する分だけ将来の基礎年金の水準が上がります。今お示ししているスライドの緑の基礎年金部分に、より厚みが出て、所得再分配機能が、令和元年の財政検証当時の見通しよりよくなるということです。

ただ、今後、どのような制度改正を行っていくかは現時点では決まっておらず、今後、検討していきたいと考えています。

司会 すみません。ありがとうございます。

それでは、もう一問お願いします。「国民年金の65歳加入延長が取り沙汰されておりますが、現下で税負担増加の見込みは立ちそうですか」ということです。お答えになれる範囲で、お願いいたします。

免田 最近の報道で、「基礎年金の加入期間を、現行の20歳から59歳までの40年を45年にすることを検討」というような記事が出ていたかと記憶しています。

こちらにつきましても、「保険料を払う期間を、現行の40年から45年にすることも検討するように」というご指摘を受けているところでございます。

この45年化につきましても、財政検証のオプション試算や先ほど申し上げた追加試算で推計を行っておりますが、保険料を払う期間が5年延長する分、基礎年金も増えることとなります。このとき、ご質問いただいたように、基礎年金の財源の半分は国庫負担ですので、国庫負担も増えることとなりますが、こちらにつきましても、繰り返しとなりますが、今後、どのような制度改正を行っていくかは現時点では決まっておらず、今後、検討していきたいと考えています。

司会 ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、これにて終了させていただきます。免田様、本日は、お忙しい中、ご講演いただきまして、大変ありがとうございました。

また、ご参加の皆様には、アンケートやご質問等をたくさんいただきまして、ありがとうございました。このあとも、Slidoでご感想等をいただければ、大変幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、セッション「これだけは知っておきたい公的年金財政のはなし」を終了いたします。